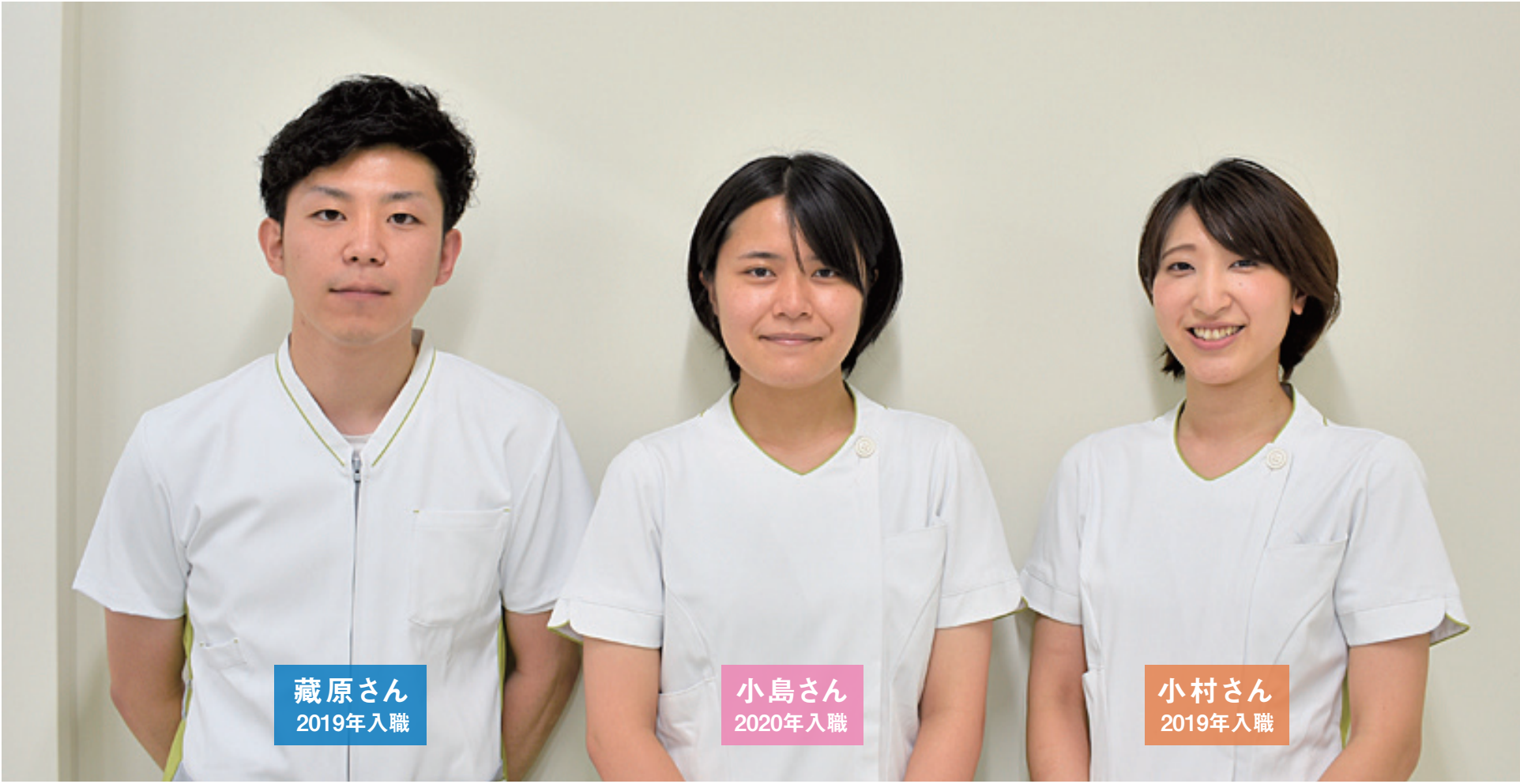


新卒 臨床検査技師からのメッセージ



Q1. 臨床検査技師を目指したきっかけは？

藏原さん● 祖父が入院した際、細胞診という検査があることを知り、がん細胞を最初に見つける仕事に魅力を感じました。それで細胞診ができる臨床検査技師を目指したんです。

小村さん● 私はもともと医療系の道に進みたくて。調べていくうちに自分が好きな生物分野を専門的かつ医療に活かせる臨床検査技師という仕事があることを知り、志望しました。

小島さん● 私も医療職に就きたいと思っていました。臨床検査技師は、検体検査、生理学的検査など業務の範囲が幅広く、やりがいがありそうな仕事だと思ったんです。



Q2. 相良病院に入職した経緯について



藏原さん● 病理診断に携わりたかったので、就職活動では出身地の熊本にこだわらず、九州全域を視野に入れていました。相良病院に入職したのは、大学の教授の紹介がきっかけです。

小村さん● おじが相良病院の緩和ケア病棟に入院していたことがあり、あたたかい医療を提供されているのが印象に残っていたんです。大学の教授の紹介でインターンシップに参加したところ、同年代の先輩方が多く、専門性の高い医療を地元で提供していることにも魅力を感じました。

小島さん● 福岡出身なので、専門学校で求人票を見て、初めて当院を知りました。母が乳がんになったこともあり、私も乳がん医療に関わりたいいなと何となく考えていたんです。そこでインターンシップに参加してみたところ、すごくきれいな病院で、ここで働けたらいいなと思って志望しました。

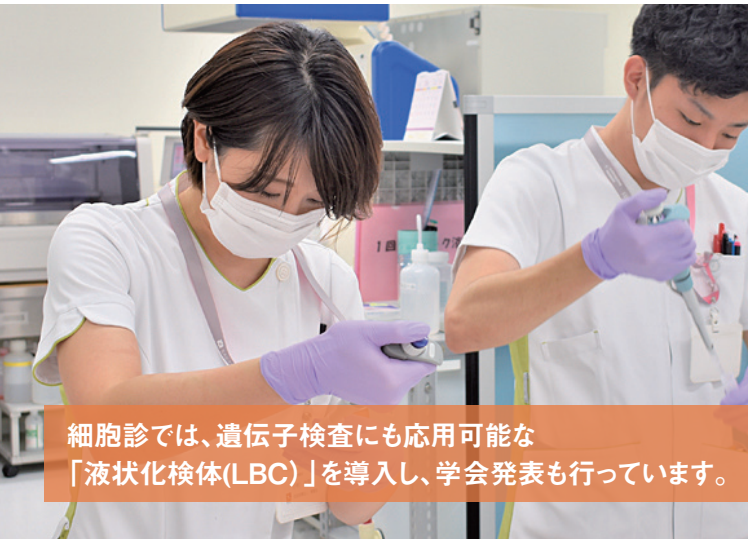
Q3. 仕事のやりがいと相良病院の魅力は？

小島さん● 生理機能検査室で先輩方に学んでいます、「何かあったらいつでも相談してね」と、みなさん優しく丁寧に指導して下さいます。症例数がとても多いので、同じ疾患でもさまざまなケースを学べるのも魅力だと思います。

小村さん● 1年目は人間ドック、採血室、甲状腺科で、患者さんと直接関わる機会を多くいただきました。2年目の今年は病理検査室に異動になり、専門病院として一人ひとりの患者さんをみんなで診ているという実感がより強くなりました。臨床検査技師は、いろいろな面から患者さんに関われるというやりがいがあります。

藏原さん● 採血室から病理検査室に配属され、1年目は検体を扱う責任の重さを学ぶため、看護部でも研修を受けました。覚えることも多く、きついと思ったこともありますが、先輩方や同期に支えられ、2年目の今年から検体を扱わせてもらえるようになりました。コロナが流行する前は院内外の学習会に参加する機会も多く、研修制度が整っているのも特徴のひとつです。

小村さん● 当直や夜勤がないぶん、ゆとりがあるので、空いた時間を自己学習にあてる先輩方も多く、刺激を受けています。



Q4. 今後の目標と後輩にメッセージを！

小島さん● いまはエコーの研修に入ったばかりで、模型で練習したり、先輩に被験者役として指導していただいています。まずは見落としがないように、なぜこのような所見になるのかをきちんと考えながら、しっかりと検査をできるようになるのが直近の目標です。将来は、細胞検査士の資格取得を目指しています。

小村さん● 相良病院では、臨床検査技師への第一歩として、患者さんへの向き合い方や検体に対する姿勢などを充実した教育体制のもとに学ぶことができます。まだまだ知識も技術も先輩方に遠く及ばないので、継続的に知識や技術を深めて、できることを一つずつ増やしていきたいです。

藏原さん● 部長や先輩方も取得されている細胞検査士や二級臨床検査士(病理学)の資格取得を目指しています。相良病院は、臨床検査技師としてはもちろん、人としても成長できる環境です。中心街に近い立地で、建物も新しく、桜島や錦江湾の景色もきれいです。性別を問わず活躍できる職場なので、男性の方もぜひ応募してみてください！